



平成29年度 第2回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成29年7月～8月)のポイント

(1) 概要：

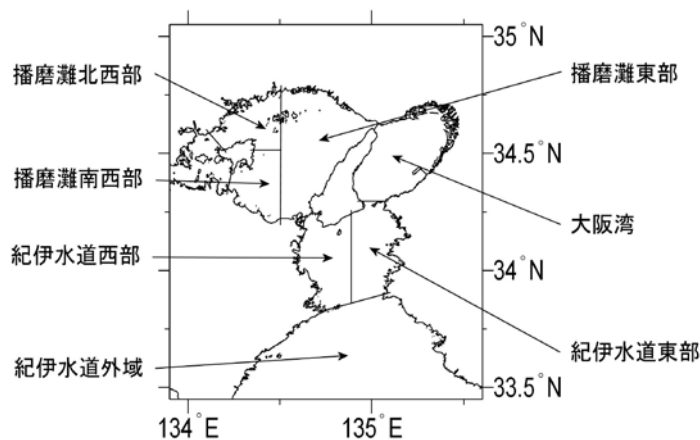
シラスは平年並みか下回る。カタクチイワシ(小羽から大羽)は前年を下回る。

(2) 海域別：

紀伊水道東部・紀伊水道西部・播磨灘東部・播磨灘南西部のシラスは不漁であった前年を上回り、平年並み。

大阪湾のシラスは不漁であった前年並み。カタクチイワシは前年、平年を下回る。

播磨灘北西部のシラスは平年並みであった前年を下回る。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所

担当：業務推進部 日向野、廣瀬

資源生産部 小畑、河野

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.fra.go.jp/>

平成29年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2017年7月～8月）

シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道東部・紀伊水道西部・播磨灘東部・播磨灘南西部では不漁であった2016年を上回り、平年並み。大阪湾では不漁であった2016年並み。

播磨灘北西部では平年並みであった2016年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、特に断りがない場合、2007年～2016年の平均値を平年値とした。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では2016年、平年を下回る。

標本船の漁獲量を指標とし（図4）、2007年～2016年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2017年4月～6月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の156%、平年の100%であった。6月の漁獲量は26日現在で前年の566%、平年の335%である。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の99%、平年の147%であった。

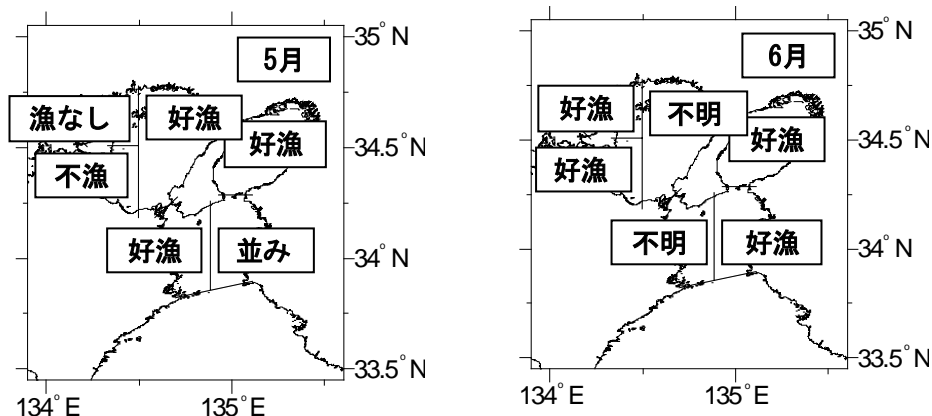
大阪湾（大阪府）では2017年の漁は前年同様、4月下旬から始まった。4月の漁獲量は前年の40%、平年の169%であった。6月上旬まで好調に推移した。

大阪湾（兵庫県）では2017年の漁は前年より3日遅い4月25日から始まった。5月の漁獲量は前年の46%、平年の106%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2017年の漁は前年より2日早い5月19日から始まった。5月の漁獲量は前年の64%、平年の137%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2017年の漁は前年と同じ5月20日から始まった。5月中はほとんど漁獲がなかったものの、5月末から急に漁獲され始め、6月中旬現在、前年並みの好調な漁が続いている。

播磨灘北西部（岡山県側）では2017年の漁は前年同様、6月1日から始まった。6月の漁獲量は14日現在で前年の103%、平年（2009年から2016年の平均値）の219%である。



2017年5月～6月のシラス漁況

(2) 産卵量

紀伊水道外域の東側では5月にカタクチイワシ卵は採集されなかった（前年2粒／曳網、平年14粒／曳網）。紀伊水道東部では5月は前年の1576%、平年の92%であった。

大阪湾では5月は前年の160%、平年の172%、6月は前年の65%、平年の78%であった。

播磨灘では6月は前年の187%、平年の221%であった（図5）。播磨灘東部では6月は前年の16%、平年の31%、播磨灘南西部で前年の2467%、平年の790%、播磨灘北西部で前年の91%、平年の14%であった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年夏季発生群）

6月15日現在、黒潮は都井岬沖で著しく離岸、足摺岬沖でやや離岸、室戸岬、潮岬で接岸している。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システムFRA-ROMSの予測結果を併せて考慮すると、紀伊水道沖の黒潮は6月後半から8月まで、小蛇行の東進によって離岸すると予測される。

紀伊水道東部では外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。紀伊水道外域の東側と紀伊水道東部での5月の産卵量は2016年を上回って平年並みであり、6月（暫定値）は2016年を上回っている。6月中旬以降、紀伊水道入口付近や北部などで好漁となり、6月の漁獲量は26日時点で不漁であった2016年、平年を上回っている。また紀伊水道外域でも6月は好漁である。本漁期に黒潮は離岸すると予測されているが、紀伊水道や紀伊水道入口付近での産卵が継続していること、大阪湾での産卵やシラス漁が継続していることから、不漁であった2016年を上回り、平年並みになると考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。7月～8月の漁獲量は6月の紀伊水道西部と播磨灘（徳島県海域）の水温が低いほど多くなる傾向があり、播磨灘（徳島県海域）よりも紀伊水道の影響が大きい（図6）。紀伊水道西部の水温は2016年、平年よりやや低め（ -1.0°C 以上、 -0.5°C 未満）、播磨灘（徳島県海域）では2016年より低め（ -1.5°C 以上、 -1.0°C 未満）で、平年並み（ -0.5°C 以上、 $+0.5^{\circ}\text{C}$ 以下）であったことから、不漁であった2016年を上回り、平年並みと予測される。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。黒潮は離岸すると予測されており、今後の外海発生群の漁獲はあまり見込めない。5月の産卵量は2016年、平年を上回ったが、6月は2016年、平年を下回っていることから、不漁であった2016年並みと考えられる。

播磨灘東部では内海発生群が漁の主体であり、6月の水温が低いほど7月～8月の漁獲量が多くなる傾向がある（図7）。また明瞭でないものの、播磨灘全体の6月の産卵量が多いほど7月～8月の漁獲量が多くなる傾向がある（図7）。播磨灘全体での6月の産卵量は2016年、平年を上回っており（図5）、水温が2016年よりやや低めで平年並みであることから、不漁であった2016年を上回り、平年並みと予測される（図8）。

播磨灘南西部も内海発生群が漁の主体である。6月中旬までの漁は概ね好調であり、6月の産卵量や仔魚採集量は2016年、平年を大きく上回っている。しかしながら、近年は6月の産卵量や仔魚採集量が多くても本漁期の漁獲量は平年を下回る傾向があることから、不漁であった2016年を上回り、平年並みと考えられる。

播磨灘北西部も内海発生群が漁の主体である。6月の漁は好調であるものの、産卵量は平年を下回っていることから、平年並みであった2016年を下回ると考えられる。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では漁期当初に2016年発生1歳魚、その後は2017年の春シラス漁で漁獲の対象となった0歳魚が小・中羽として漁獲される。大阪湾における産卵量から判断すると大阪湾に滞留している1歳魚は2016年より少ないと考えられる。また2017年の春シラスの漁は比較的好調であったものの、2016年を下回っていることから、2016年、平年を下回ると考えられる。

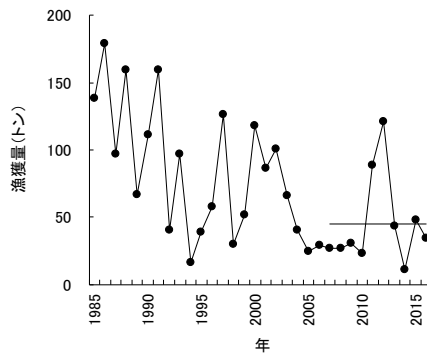
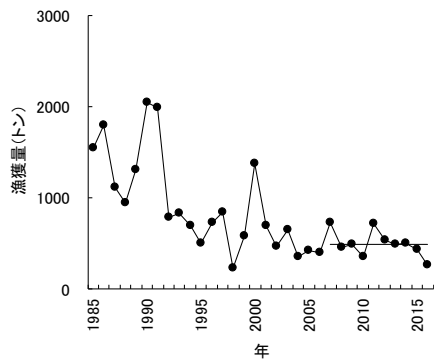


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は2007年～2016年の平年値）

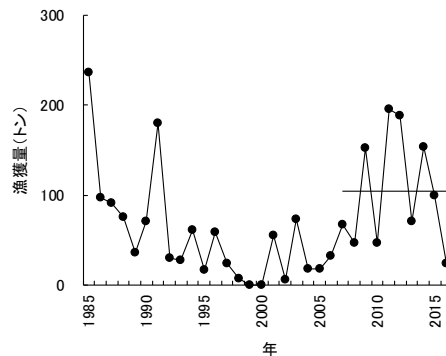
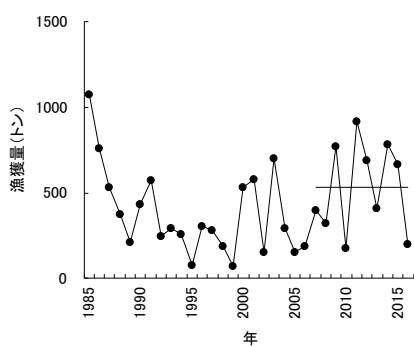


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は2007年～2016年の平年値）

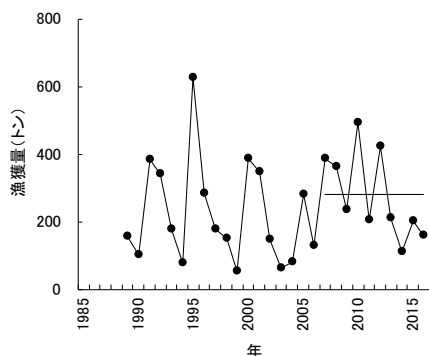
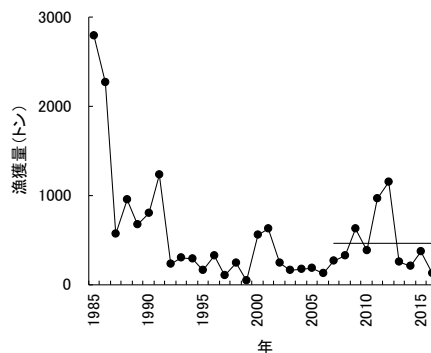
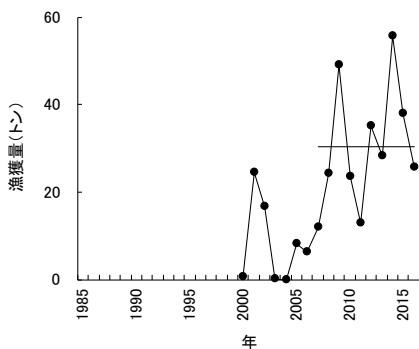


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における7月～8月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は2007年～2016年の平年値）

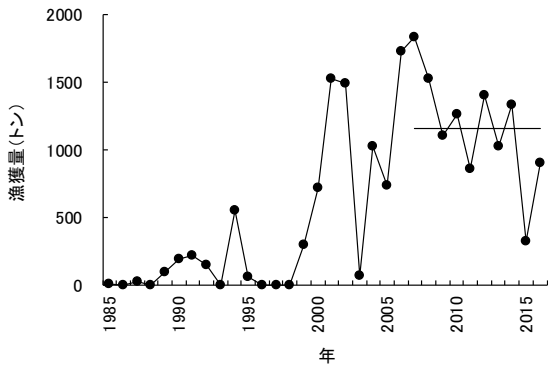


図4 大阪湾の標本船における7月～8月のカタクチイワシ漁獲量（実線は2007年～2016年の平年値）

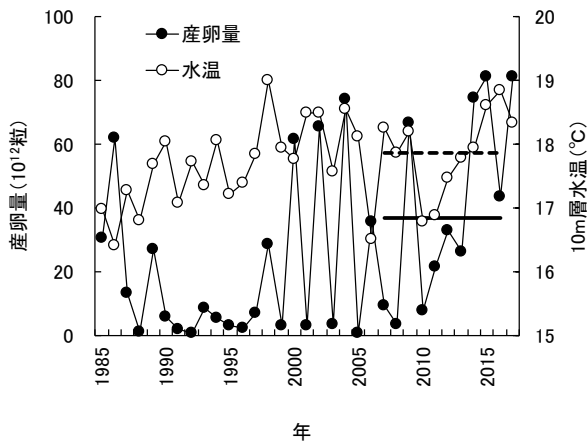


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層水温（実線は産卵量、点線は10m層水温の2007年～2016年の平年値）

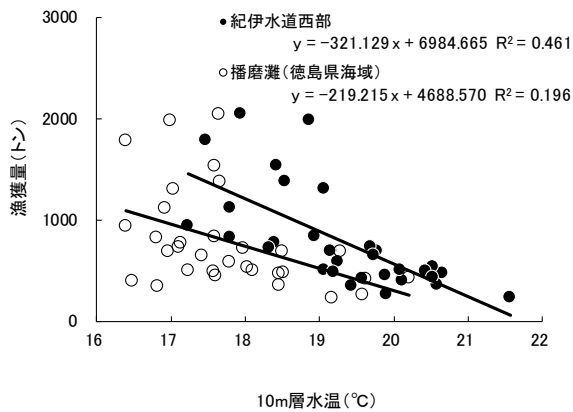


図6 紀伊水道西部・播磨灘（徳島県海域）における6月の10m層水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

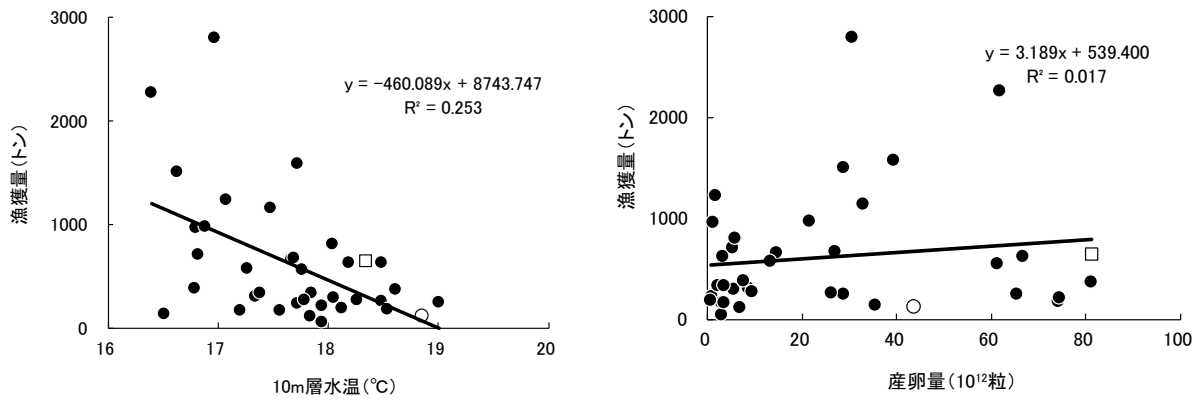


図7 播磨灘における6月の10m層水温と播磨灘東部における標本漁協のシラス漁獲量の関係（左図）及び6月の産卵量と標本漁協のシラス漁獲量の関係（右図）
 使用したデータは1981年～2016年、○は2016年漁獲量、□は2017年予測値（2017年予測値は産卵量と水温をパラメータとした重回帰分析から求めているため、必ずしも両図の回帰直線上にない）

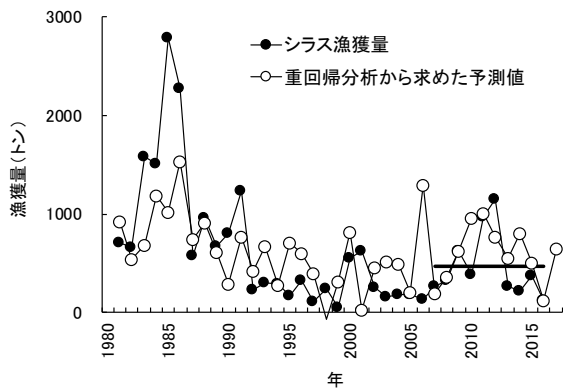


図8 播磨灘東部の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量と重回帰分析から求めた漁獲量予測値（実線は2007年～2016年の平年値）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	---